

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 消化器癌に対する組織透明化法を用いた三次元的病態解析

研究の目的

組織透明化法は、対象とする病理組織(切除された癌などの組織)を透明化し、蛍光免疫染色によって三次元的な観察を行う方法です。これまでの一般的な病理標本では4 μ mの厚さで二次元的な観察を行っていましたが、組織透明化法を使用することで50~200 μ mの範囲で、三次元的な観察を行うことが可能となります。消化器癌組織の観察において、癌そのものの進展形式を解析するにとどまらず、リンパ管や血管、神経への浸潤形式について広範囲かつ立体的な観察を行うことで、転移や再発を生じるメカニズムの解明が可能になると考えられます。

また、消化器癌に対する根治的治療は手術治療ですが、現在では化学療法(抗がん剤)、放射線療法を追加した集学的治療(異なる治療を組み合わせることで、癌に対する治療効果を高める方法)が確立されています。そのような治療には、癌細胞だけでなく、腫瘍間質、脈管等の相互作用が深くかかわっています。そこで、いままでの病理標本(二次元)では明らかにできなかった、基礎的な癌組織の構造の解明に加え、腫瘍間質、脈管との相互作用を三次元で詳細に解析することで、集学的治療によって癌組織にどのような変化が生じ、効果を発現するかを検討することが必要です。

研究実施期間： 実施許可日から ~2029年12月31日

対象となる方： 2018年1月1日から2026年12月31日までの間、弘前大学医学部附属病院消化器外科を受診し、消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌、胆管癌、膵癌)と診断され手術を受けられた方のうち、各癌で進行癌と診断された50~100名程度の患者様。

利用させていただきたい試料・情報について

2018年1月から2026年12月の間に当施設で消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌、胆管癌、膵癌)に対する手術を施行された患者様のうち、各癌において進行癌と診断された50~100名程度の患者様を対象とします。病理標本から患者様の診療に影響がない範囲(1mm程度の薄さ)の癌組織を採取、透明化処理し三次元的な構造解析を行います。特に、癌組織がリンパ管や静脈、神経に浸潤する際の変化について観察を行います。消化器癌の病態解明をすることで今後の診療の発展および患者様の予後向上に寄与できると考えます。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し(これを匿名化といいます)行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	消化器外科学講座 小笠原宏一 電話: 0172-39-5079
-------	---------------------------------